

かすかべ未来研究所 政策の「最適化」を目指して

春日部市総合政策部政策課 野口 勉

1 春日部市にふさわしいシンクタンクの姿を探る

地方分権、少子高齢化、都市間競争など、自治体を取り巻く様々な環境要因は、他に漏れず、本市においても大きな影響を及ぼしており、市の発展を目指す過程でシンクタンクの設置は急務でした。そのような中、シンクタンクが効果的かつ持続可能な形で機能するためにも、まずは「春日部市にふさわしいシンクタンクの姿とは何か」を探ることが、最も重要な課題となりました。

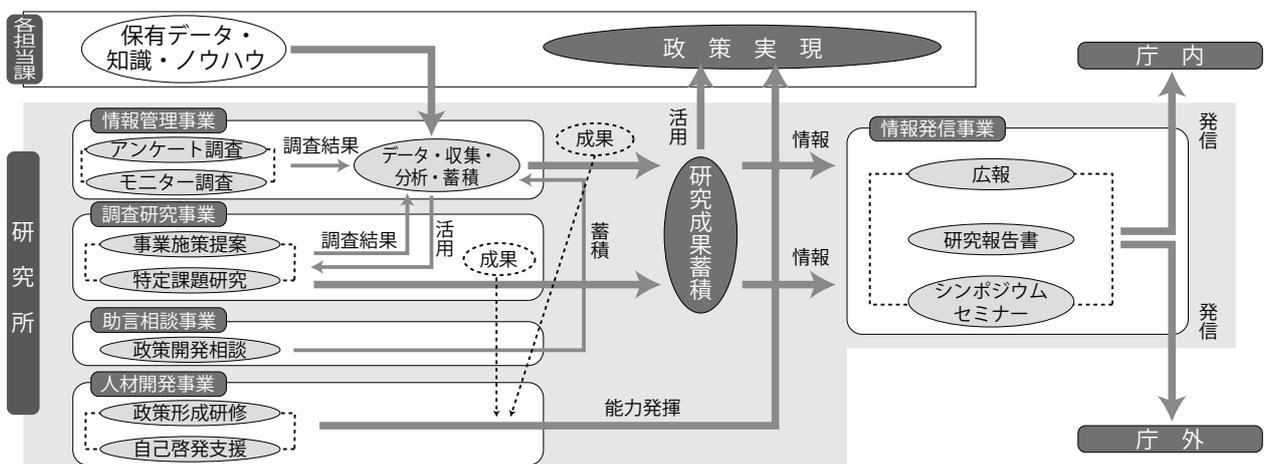
設置に向けた調査研究は、市民ニーズ、財政状況、職員の能力の3つの視点で本市の現状を整理することから始まりました。中でも「職員の能力」については、①人事評価制度構築の際に実施されたトップヒアリング、②職員アンケート結果の他市との比較、そして③他の自治体職員へのヒアリングの3つの調査を通じて、本市職員に求められる能力・意識の実態を探っていきました。また、シンクタンクの役割と機能を検討する過程でも、職員向けにヒアリング

を実施し、庁内で必要とされている、シンクタンクに求められる機能についても明らかにすることができました。このように、調査研究全体を通じて職員目線の、より現場に近い意見や見解を明確にすることで、本市にとって最良のシンクタンクのあり方を知ることができました。

2 かすかべ未来研究所の役割と機能

かすかべ未来研究所は、総合政策部長を所長、政策課長を副所長、政策課政策推進担当4名を専任研究員として組織されています。研究所には大きく「調査研究機能」、「支援機能」、「人材開発機能」の3つの機能がありますが、それらはすべて最終的に、各担当課における「政策実現」につながるものとされます。中でも、調査研究機能は、庁内全体を通じての「研究成果及び統計データの蓄積」という重要な役割を担うこととなり、政策実現の根拠及び庁内外に向けた情報発信の際の情報源に結びつくこととなります。(下図参照のこと)

【かすかべ未来研究所 事業フロー図】

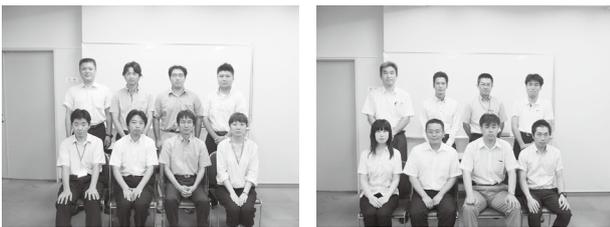


3 設置後の成果

設置後の成果としては、主に以下の3つが挙げられます。

1つ目は、平成23年度に行われた2つの調査研究「大災害が発生した場合の職員の対応」「春日部の教育力のアピールの必要性とその方策」の研究成果です。この2つの調査研究は、それぞれのテーマに関係する課の職員8名で研究チームを組織し、1年間にわたる活動の結果、それぞれ大変有効な研究成果を得ることとなりました。特に前者においては、後に、彩の国さいたま人づくり広域連合主催「平成23年度政策研究発表会」および公益財団法人日本都市センター主催「第13回都市政策研究交流会」において、発表する機会を得ることにもつながりました。研究終了後には、「チーム内で共通認識を持つまでに時間がかかった」等の苦労したことがあったものの、それよりも「問題に取り組む意欲が持てるようになった」「政策提言の手法を知ることができた」「新たな人脈を得ることができた」といった、取り組んで良かった点が、メンバーから感想として多く寄せられました。

【平成23年度調査研究チームのメンバー】



「大災害が発生した場合の対応」 チーム名：KADA
 「春日部の教育力アピールについて」 チーム名：AKB8

次に2つ目は、積極的な視察受入れによる研究員の説明能力の向上です。これまで、北は新潟県から南は島根県に至るまで、1年間で計10か所にも及ぶ自治体から、自治体職員及び議会関係者の方々が視察に見えられました。視察に際しては、まず研究員が自らについてよく知っていないと他者に説明できないことから、準備を重ねていくことで自然と知識や説明能力を身につけることができました。また、

他地域における課題や今後の展望などについて見聞きするきっかけともなり、様々な視野を得る機会ともなりました。

そして3つ目は、「外部有識者講演会」の開催です。今年度の調査研究は「行政評価制度」「人口増加」「広報戦略」「本市の現状と課題」の4つのテーマで、専任研究員を中心に研究チームを組織して進めていますが、この「外部有識者講演会」はこれらの研究テーマに沿う内容として、それぞれの専門分野で活躍する有識者に講演いただくものです。普段、庁内ではなかなか見聞きすることのできない専門的な視点からお話いただくことで、職員にとっては実用的な知見、そして何より、新たな視野を得る機会となりました。この講演会を通じて、より先進的な研究成果に結び付けるのはもちろんのこと、最終的には、職務における効率化や自己啓発への積極的な姿勢など、各職員の政策形成能力向上につながることを期待しています。

4 今後の展開

かすかべ未来研究所を設置してから、もうすぐ2年が経とうとしています。最近、研究員が強く感じていることは、庁内でシンクタンクの存在意義が高まってきたということです。

例えば、担当課から計画等の策定に際して、「研究所に〇〇〇についてのデータはありますか？」といった問合せやデータ提供の依頼が多く寄せられるようになりました。また、新しい事業を検討する際にも「△△△に関する情報を持っていますか？」というように、他自治体で展開される先進的な事例についても情報提供の依頼が日々寄せられています。

今後、かすかべ未来研究所には、様々な情報や研究成果を少しずつ蓄積していくことで、本市全体の「知識・知恵」の総合的な集積を図ることが期待されています。また、それらを上手に活用していくことで、最終的には、政策の「最適化」を目指していきたいと思えます。